

外国語活動で活用する

本場面におけるポイント

- 道徳の内容項目を意識して、言語を用いたコミュニケーションの大切さを実感する
内容項目2-(2)は、特にコミュニケーション能力の土台となるものである。他の人との関わりに関する内容を意識して、さらに子どもの意欲や学習の成果を高めていく。
- 多様な表現活動を通じて、体験的な学びをする
「困った人を助けるとき、外国語でどうするか」のような活動や、プレゼンテーションなどの表現活動を通して、体験的な学びを深めていく。
- 世界とのつながりを、「心のノート」を通じて考えていく
導入で「心のノート」一心は世界を結ぶ一を読むことで、世界とのつながりを感じ、それぞれの文化に対する視野を広げていく。

4 外国語活動での活用

● 「心のノート」を活用し、内容項目を意識して活動する実践(第5学年)

- 1 単元名 May I help you?
- 2 ねらい 人を助けるときや、感謝の気持ちを表すときの表現に親しみながら外国語を通じた友達との関わりを楽しむ。
- 3 指導計画(全3時間)

学習活動の流れ	
第1時	Thank youの表現に親しむ。
第2時(本時)	<ol style="list-style-type: none"> 1 様々な場面のThank youを確認する。 2 「心のノート」高学年P.44~45を読んで、親切な行動やそれを支える思いについて考える。 3 教師による May I help you? の表現を聞いたり、それらをくりかえし言ったりしてその表現に慣れる。 4 ペアをつくり、「困ったカード」を用いて“May I help you?” “Thank you”の表現に親しむ。 5 もう一度、「心のノート」高学年P.44~45を読み、今日の学習を振り返る。
第3時	学習したことを劇にして、さらに表現に親しむ。

5 「心のノート」活用の実際

① 導入での活用

配布された「心のノート」を真剣に読む子ども。親切な行為や、それを支える心情について、それぞれに考えていた。

4 「心のノート」を生かす工夫



5・6年用P.44~45

導入で「心のノート」を読んで、親切な行為の根底にある思いやりについての考えを深める。それにより、ただ“May I help you?” “Thank you”の表現をするだけでなく、行為を支える思いも考えながら表現に親しむことができる。



導入で「心のノート」を読む子ども

多様な表現活動や体験的な学びに生かす

② 表現活動に親しむ

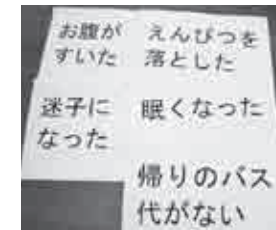
右の「困ったカード」を用いて主な活動を行った。子どもが2人組をつくり、そこで教師が「困ったカード」を提示し、一人の子どもはその



劇の表現を楽しむ様子

「困ったしぐさ」をする。もう一人の子どもは“May I help you?”と言いながら手助けをして、助けられた子どもは“Thank you”と返す。この活動を2人分繰り返したら、また次のペアをつくっていく。

児童はスキット(寸劇)を楽しみながらも、助けようとする思いやりや助けられる喜びを感じていたようだった。



● 外国の文化について調べ、プレゼンテーションをする事例(第6学年)

- 1 単元名 外国の文化を調べて、プレゼンテーションをしよう
- 2 ねらい 調べ活動などを通して外国の文化への理解を深め、自分の考えをもつ。
- 3 指導計画(全4時間)

学習活動の流れ	
第1時	世界の国々への意識を高め、テーマにそってグループごとに調べ学習をする。 ○「心のノート」5・6年用P.108~110を読み、外国への意識を高める。 ○少人数のグループをつくり、調べ学習を始める。
第2時 第3時	調べたことをまとめ、プレゼンテーションの準備をする。
第4時	グループ毎にプレゼンテーションを行う。 ○学習を振り返り、まとめる。

※調べ学習については、事前に学校司書などに相談しておくことよい。

5 「心のノート」活用の実際

① 導入での活用

テレビにコンピュータを接続して資料提示をすることにより、学習への意欲が高まっていた。



② 調べ学習・プレゼンテーション

自分の好きな国の文化なので、児童は興味をもって積極的に調べ、まとめていた。少人数グループにすることで、プレゼンテーションでも一人一人の活躍の場が設定できた。



学校司書の協力を得て調べ学習を進めた